

みくまの

8・9月号  
No.1

マンスリータイムズ



### 職員研修 人権研修

7月30日(火)本校教職員対象として、「LGBTQ」をテーマに人権研修を行いました。講師は、那智勝浦町在住の丸山都氏。丸山氏は、女性の体に生まれ、男性として生きる当事者であり、性の多様性について一人でも多くの方に知ってもらうため、地元和歌山を中心に啓発活動をされています。講演は終始和やかな雰囲気で行われ、時折質問を交えながら、丸山氏の生い立ちや苦労したこと、考えたこと等の経験を聞かせてくださいました。性を考える4つの軸(こころの性、からだの性、好きになる性、表現する性)について、カミングアウトされた時の対応、アライ(性的マイノリティ当事者のことを理解し、支援のために行動できる人)等についても教えていただきました。「性の問題は一部の人の話ではない」、「多様な性のあり方を知ることで多様性を認め合い、一人一人が自分らしく暮らせるような世の中にしていきたい」、学んだことを2学期からの子どもたちとの関わりの中で実際に生かしていきたいと感じました。



### 職員研修 3観点評価に係る研修

7月31日(水)全校教員で「3観点評価に係る研修」を実施しました。研修タイトルは、「誰が見ても評価できる目標設定を目指して」。

学習評価の3観点のポイントや目標設定の仕方について、教員自身の中で整理することができれば、子どもたちの資質を正しく評価することができ、子どもたちの生きる力を伸ばすことができるのではないかと考え取り組みました。研修の冒頭では、県立学校教育課特別支援教育室 池田和樹 指導主事から3観点ごとの評価のポイントやその関連性について基本的な内容を学びました。講義の後には、架空の2つの事例について3観点別に目標を立てるグループワークを行いました。各グループで設定した目標はお互いに紹介し合い、評価を行いやすい具体的な目標や表現の工夫等について意見を交わしました。



特別支援学校は、複数の教員で子どもの姿を把握し、支えることが強みです。組織的、計画的な取組で、学習評価の妥当性、信頼性を高め、「誰が見ても評価できる目標設定」を目指していきたいと思えます。



## ボランティアスクール

コロナ禍や校舎改修の影響でしばらく開催することができていなかったボランティアスクールでしたが、今年度5年ぶりに8月5日(月)、6日(火)の2日間の日程で開催することができ、新宮市内の高校生9名が参加してくれました。

〔初日〕校長の開催挨拶の後、みくまの支援学校の概要と障害等についての講義に参加した高校生たちはみな、真剣な表情で耳を傾けていました。その後小学部の夏祭りへ参加しました。夏祭りへの参加は、本校の児童と関わる機会となりました。初めは不安や緊張もあったと思いますが、小学部のみんなの笑顔を見るとそんな不安はあっという間になくなっていったようです。その後、パラスポーツのボッチャ体験を行いました。簡単なルール説明の後、実際に投球してのボッチャ体験では和やかな雰囲気の中あっという間に時間が過ぎていきました。また後半はクランプという傾斜台を使って、競技者と介助者の両方を体験してもらいました。伝え方や介助方法に戸惑いながらも自然とお互いにコミュニケーションを取りながら、競技していました。

〔2日目〕車椅子の基本操作を学んだり、乗車体験に取り組んだりしました。声かけのない乗車時の怖さを体感することで、操作時の声かけの大切さも感じてもらいました。その後は中学部生徒との夏祭りでの交流でした。一緒に準備から片付けまで協力しながらの体験で、初日の緊張も取れ、和気藹々とした夏祭りを過ごしているようでした。

最後に校長より修了書を受け取り、2日間のボランティアスクールが無事終了しました。終了後、どの生徒からも『楽しかった』『来て良かった』『将来の進路決定に役立ちました。』と感想がありました。今回のボランティアスクールを機会に、福祉や特別支援教育への関心がより深まればよいと感じました。

